

＜エントリーシート＞	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	カリキュラム・マネジメント実践部門 平成30年第4回中堅教員研修	仙台市立茂庭台中学校 教諭 阿部 信哉
No. : A - 11	活動名 「安心できるバルーンの構築」 ～自己有用感を膨らませる活動の実践～	

課題の設定

(1) 社会に開かれた教育課程の編成に向けて、小中連携や地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図っていく。〈教職員側における視点〉

(2) 地域の一員としての意識を高め、地域の特色を生かした自発的な活動の開発と協働的な学びの推進(道德教育の推進)を図っていく。〈生徒側における視点〉

(3) 学校運営協議会への移行を視野に入れながら、地域と共に歩む学校運営のあり方や方策について探究し、効果的な教育活動の推進と共有化を図っていく。〈家庭・地域側における視点〉

方針・計画

(1) 小・中学校の教職員が茂庭台の子供の9年教育（自分づくり教育の推進、小中連携関係計画の充実、学習規律の確立等）を意識し、地域の特色を生かした学校行事と関連付け、社会に開かれた教育課程を編成していくことによって、カリキュラム・マネジメントを推進していく。〈教職員側における視点〉

(2) 生徒の校内外における活動内容の精選と充実を図り、協働的な深い学びを実現させていくことによって、地域の一員としての自覚と生徒一人一人の自己有用感を高めていく。〈生徒側における視点〉

(3) 家庭・地域の人々の意見や思いを取り入れた協働型学校目標を設定し、日々の教育活動の実践を発信していくことによって、更に学校と家庭・地域との連携を密にしていく。〈家庭・地域側における視点〉

活動内容

- 地域の特色を生かした学校行事の実践(地域の特色を生かした教育課程の編成、カリキュラムデザインの作成と見直し)【図1参照】
- 道德教育の推進(p4cの手法の活用、道德科研修会の実施、小中連携合同研修会の実施、通信票作成説明会の実施)【図4参照】

活動の成果

- 「学校教育全体の中で道徳的価値を意識した教育活動がなされている。」の学校評価項目に対して、教職員からは十分達成できた、または、おおむね達成できたで回答を得ている。
- 「小中連携の内容や方法は適切である。」の学校評価項目に対して、教職員からは十分達成できた、または、おおむね達成できたで回答を得ている。
- 「周りの状況や他者の気持ちを考えることができる。」の協働型学校評価項目に対して、各学年の生徒からは十分達成できた、または、おおむね達成できたでほぼ80パーセントの回答を得ている。
- 「自らの考えや行動に対して自信を持つことができる。」の協働型学校評価項目に対して、各学年の保護者からは十分達成できた、または、おおむね達成できたで80パーセント以上の回答を得ている。

アピールポイント（アイデアや工夫）

- 小中連携や地域の特色を生かしたカリキュラム・デザインの作成と見直し⇒3年間を見通した作成と見直し
- 茂庭台の子供の9年教育を意識した小中連携【図2参照】⇒教職員の意識改革と情報の共有化
- 成果と課題を明確にする協働型学校目標の設定【図3参照】⇒SWOT分析の効果的な活用
- 道德教育の推進(p4cの手法の活用)⇒他学年でも授業実践できる環境づくり

※事務局記入欄

No. A-11

【図1】地域の特色を生かした学校行事の実践

① 仙台市中学校教育研究会学校行事部会で実践発表(H30.10月)
 ② 地域の特色を生かした教育課程の編成
 ③ 小中連携や地域の特色を生かしたカリキュラム・デザインの作成と見直し

※地域の一員としての自覚

※地域の活性化

具体的な施策

(1) 学校

- ① 授業や諸活動など、学校生活の全場面を通して、「学族」(生徒・教職員は一つの家族である)の意識と相手の気持ちを考えて思いやりのある行動ができる意識の向上を図る。
- ② より安全で安心な学校・学級を目指すための活動を生徒自身に考えさせ、その活動を教職員も支援して実現させることによって、生徒の達成感、達成感を持たせる。
- ③ **地域防災訓練や学区民運動会をはじめ、地域活動へ参加する機会を増やし、中学生自身に自らの重要性を自覚させて自己有用感を強化し、地域に貢献する意識の向上を図る。**

考察

(1) 地域貢献活動の意義や必要性について考える機会を設け、活動内容の精選と充実を図っていく。
 (2) 地域の一員としての意識を高め、より自発的な生徒会活動の推進に力を入れていく。
 (3) 社会に開かれた教育課程の編成に向けて、小中連携や地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図っていく。
 (4) 協働型学校評価重点目標をより生徒の活動が見えるように内容を吟味していく。また、達成度が分かるように目標値等を示すことも検討していく。
 (5) 学校評議員から学校運営協議会への発展を視野に入れながら、地域とともに歩む学校運営、学校行事のあり方について検討しながら、効果的な教育活動の推進を図っていく。

＜実践発表時の具体的な施策と考察の一部＞

【図2】茂庭台の子供の9年教育

育てたい能力	目指す姿(例)	小学校	中学校
みつめる力 (自己理解力) (自己管理力)	○規範意識の高い児童・生徒 ○自分の良さを知り、生かせる児童・生徒	○「時・場・礼」を核とした生活指導 ○学習規律・学習訓練の定着と教師の授業力向上	○時を守り、場を清め、礼を正す ○規範意識と自尊感情、自己有用感を高める生徒指導
かかわる力 (人間関係形成力)	○あいさつができる児童・生徒	○あいさつ運動 ○ハートスキル	○あいさつ運動 ○人間関係プログラム
うごく力 (課題対応力)	○清掃・奉仕に連んで取り組む児童・生徒	○登校時地域清掃 ○日常清掃活動の重視 ○ちょボラ・異学年交流 ○「時・場・礼」を核とした生活指導 ○地域総合防災訓練	○地域清掃 ○清掃指導の徹底 ○福祉体験活動 ○ボランティア活動 ○地域総合防災訓練
みつめる力 (キャリア能力) (プランニング能力)	○家庭学習に進んで取り組む児童・生徒	○家庭学習制度 ○漢字検定 ○チューデントシティ	○家庭学習の習慣化 ○上級学校調べ ○職業調べ、職場体験活動 ○企業訪問 ○フィナンスパーク
いかす力 (情報活用能力)	○自分の考えを表現できる児童・生徒	○言語力の育成 ○協働型学校評価の活用	○発言、発表の仕方の改善 ○理由づけして説明、発表させる指導

【図3】茂庭台中協働型学校目標

＜協働型学校評価における到達目標＞

「学校・家庭・地域での活動において、思いやりを持って自ら行動できる力の育成」

＜今年度解決を目指す協働型学校評価の重点目標＞

① 自らの考えや行動に対して自信を持つことができる。
 ② 周りの状況や他者の気持ちを考えることができる。
 ③ 自分の気持ちや意見をしっかりと伝えることができる。

学校・家庭・地域において、各重点目標を80%以上達成するようにする！

自己有用感

【図4】道德教育の推進

① p4cの手法の活用：宮城教育大学 川崎 惣一 教授による授業提供(1学年)
 ② 道德科研修会の実施

- ・生徒や保護者に伝わる評価について
- ・学習状況の様子や成長の様子の捉え方について

③ 小中連携合同研修会の実施(事前アンケート調査の実施)

- ・講義「道德科の指導と評価について」
- ・講師：宮城教育大学 教育支援コーディネーター 福島 邦幸氏

④ 通信票作成説明会の実施

- ・道德科所見等の書き方について

～p4c合言葉～

や→やさしく聞く

ゆ→ゆつくり話す

よ→よく考える

講義 質疑・応答 デスカッション

～テーマ～

道德指導で気を付けていることは？

※情報共有の場

＜小中連携合同研修会の様子＞

＜p4cの手法を取り入れた授業の様子＞